

## 〈2018年度長野大学研究助成金による研究報告〉

## (準備研究)

## 長野県の木工文化と「農民美術」:地域振興としての山本鼎の取り組み

石川 義宗\*

禹 在 勇\*\*

ISHIKAWA Yoshimune

WOO Jaeyong

## 研究実績の概要

## 1. 研究目的と研究計画・方法

## 1. 1. 研究目的

本研究は上田市でおこった「農民美術」をコミュニティーの産業として評価することを目的にしたものである。農民美術は山本鼎(1882-1946)によって1919年に始まったものだが、農閑期を利用した工芸品の生産活動であり、本質的には地域に根ざした地場産業と定義できる。しかし、柳宗悦(1889-1961)による民藝運動が盛んになると、農民美術はもっぱら民藝史観によって批判されるようになり、現在でも美術史や工芸史における論調はこの立場を踏襲している。本研究はこの立場に対して反論を試みるという一面がある。

## 1. 2. 研究計画・方法

本研究が行った計画は以下の3つに要約できる。

## (1) 文献調査

本研究は「農民美術」を産業として評価するため、大正時代の上田市、旧神川村に関する資料を収集した。この際には本学図書館および市内の公立図書館を利用した。

## (2) フィールドワーク

「第一回山本鼎歴史ウォーキング」(上田市・わがまち魅力アップ応援事業)に参加し、元神川小学校教諭・神田愛子氏、「神川・山本鼎の会」会長・萩原高至氏、上田市立美術館・小笠原正氏、尾澤木彫美術館館長・尾澤敏春氏と面識を得た。特に尾澤氏は農民美術の作家であるため、インタビューを行ったり工房をたずねたりした。

## (3) 3Dスキャン

手仕事と機械加工の実態を記録するため、有限会社原製作所(上田市)の協力によって3Dスキャンを行った。同社には現行のスキャナーとしては最高精度(1600万画像)の性能を持つAtos triple scanがある。テストとして申請者が制作した農民美術の小型の木彫「こっぱ人形」をスキャンした。彫刻刀の切削痕や鋸の切断面などが鮮明に採取でき、同機が十分な分析性能を持っていることを確認した。

## 2. 研究成果

雑誌論文2件、学会発表3件の内容を説明する。

## 2. 1. 雑誌論文

## (1) 「地域文化の近代化とデザイン:長野県上田市の農民美術をめぐる」

後述の学会発表「デザイン史から見た農民美術の意義:長野県の木工文化として」で掲出したトピックによる初の論文である。農民美術について、都市文化の出現、山本鼎のデザイナーとしての一面、上田自由大学との関係を総合的に論じた。神川村の活動や山本個人の作家性からその通俗的な性質を論じている。これにより、デザイン運動としての近代性を指摘している。(共著者:禹在勇)

## (2) 「上田市の農民美術から見える地域の芸術的潜在力」

農民美術の核心的テーマと言える芸術的価値を論じている。地域尺度の評価基盤を農民美術研究に準備するため、上田市に現れた消費文化と神川村の政治的目覚めによって相対的に説明されている。これに

より、農民美術を誕生させた地域の内発的な潜在力の存在が明らかになっている。これは柳宗悦による農民美術批判や大正デモクラシーとしての評価のような外からの評価に反論するものである。

## 2. 2. 学会発表

### (1) 「デザイン史から見た農民美術の意義：長野県の木工文化として」

本発表は農民美術を上田市の近代化によって捉えることを提案したものである。養蚕産業の発達、都市文化の出現、山本鼎のデザイナーとしての一面、上田自由大学との関係といったトピックが、デザインの歴史として農民美術を捉えるうえで必要であることを指摘した。

### (2) 「長野県の木工文化と農民美術：上田市の近代化から」

農民美術について、上記のトピックのうち、特に市民講座「上田自由大学」との関係に着目したものである。ここには西田幾太郎(1870-1945、哲学)などが招かれているが、当の農民たちは近代的な知を求める近代人であり、したがって、農民美術は理想主義的な美術運動というより、消費文化に現れた文化産業であることを評価した。

### (3) 「地域文化の近代化とデザイン：長野県上田市の農民美術をめぐって」

(同名論文の口頭発表)

## 研究発表(平成30年度の研究成果)

(雑誌論文) 計( 2 )件

| 著 者 名          | 論 文 標 題                        |    |         |         |  |
|----------------|--------------------------------|----|---------|---------|--|
| 石川義宗・禹在勇       | 地域文化の近代化とデザイン：長野県上田市の農民美術をめぐって |    |         |         |  |
| 雑 誌 名          | 査読の有無                          | 巻  | 発 行 年   | 最初と最後の頁 |  |
| アジアデザイン文化学会論文集 | 有り                             | 12 | 2 0 1 8 | 1-8     |  |
| 著 者 名          | 論 文 標 題                        |    |         |         |  |
| 石川義宗           | 上田市の農民美術から見える地域の芸術的潜在力         |    |         |         |  |
| 雑 誌 名          | 査読の有無                          | 巻  | 発 行 年   | 最初と最後の頁 |  |
| 長野大学紀要         | 無し                             | 40 | 2 0 1 8 | 1-12    |  |

(学会発表) 計( 3 )件

| 発 表 者 名                 | 発 表 標 題                        |             |              |
|-------------------------|--------------------------------|-------------|--------------|
| 石川義宗・禹在勇                | 地域文化の近代化とデザイン：長野県上田市の農民美術をめぐって |             |              |
| 学 会 等 名                 |                                | 発表年月日       | 発表場所         |
| 第12回アジアデザイン文化学会国際研究発表大会 |                                | 2018年11月24日 | 華僑大学(中国・廈門市) |
| 発 表 者 名                 | 発 表 標 題                        |             |              |
| 石川義宗                    | 長野県の木工文化と農民美術：上田市の近代化から        |             |              |
| 学 会 等 名                 |                                | 発表年月日       | 発表場所         |
| 意匠学会第60回大会              |                                | 2018年8月8日   | 同志社大学        |
| 発 表 者 名                 | 発 表 標 題                        |             |              |
| 石川義宗・禹在勇                | デザイン史から見た農民美術の意義：長野県の木工文化として   |             |              |
| 学 会 等 名                 |                                | 発表年月日       | 発表場所         |
| 日本デザイン学会第65回研究発表大会      |                                | 2018年6月23日  | 大阪工業大学       |